

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・台風などによる災害が各地で続いている中、北海道では北海道胆振東部地震の影響で外国人観光客が半分以上に減っている。一方、現政権の経済対策の効果で国内観光客は好調である。全体的に景気は良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・果実収穫の最盛期を迎えていることで、多少は動きが出ており、景気はやや良くなっている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震やその後の全道停電の影響で9月の航空機利用者数は大きく減少したが、その後はビジネス客を中心に回復している。国内観光客も外国人観光客も徐々に回復傾向にある。今後の北海道ふっこう割などの利用拡大策の効果にも期待している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・北海道胆振東部地震の影響で景気が一瞬冷え込んだものの、政府による後押しもあり、地震後の自粛ムードは解消され、客の消費意欲もみられるようになってきている。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・9月の売上は台風及び北海道胆振東部地震の影響で20%ダウンしたが、10月は20%の増加がみられ、この2か月を平均すると例年同様の売上となった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応はいつもと変わりがなく、北海道胆振東部地震という大きな地震があった割に変化がみられない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前は需要の増える夏ということもあり、販売量自体は3か月前と比べると減っているが、これは例年の傾向であるため、景気は余り変わっていない。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・9月の北海道胆振東部地震以来、外国人観光客の減少が続いている。若干回復傾向に転じつつあるものの、まだ震災以前の水準にはほど遠い。外国人観光客による売上の減少に伴い、客単価もマイナスとなっており、売上に大きく響いている。この傾向はしばらく続き、景気の全面回復はしばらく先になる。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・9月の北海道胆振東部地震後は、防災用品や食品などの需要が高まった一方で、衣料品などの売行きは不振だった。また、ガソリンや灯油の単価が上昇している中、客の生活防衛意識が高まってきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前年の10月は日曜から始まったが、今年は月曜日から始まった。当店は大型店であり、土日が1日でも少ないと前年比に大きく響くことになる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・客単価が上がっていることで売上は増加しているが、販売量は前年を下回っている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10月に入り、秋の落ち込みからの回復がみられ始めている。客単価は低いものの、来店客が確実に購入するようになってきている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・4K放送についての問合せが多くみられる。一方で、暖房機の下見客の数が少ない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・北海道胆振東部地震や台風などの自然災害の影響も回復傾向に向かってきているが、受注量に大きな変化はみられない。受注残も減少傾向であり、売上も伸びてこない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・既存の商材に改良を加えた新商材が発売されているが、依然として販売量は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道胆振東部地震の影響で販売台数が思うように伸びてこない。停電で工場が止まったことの影響が現在も残っている。
	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・積雪がないことで冬タイヤ装着の動きが遅れているが、冬タイヤやワイパーなどの冬季商材は前年並みの販売がみられている。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格が高値で安定しているため、販売量の動きが鈍い。	
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチの動きは良かったが、夜の動きが悪く、全体では前年と変わらない。北海道胆振東部地震後は自粛ムードが漂っていたが、観光客向けの北海道ふっこう割が開始されたこともあり、国内客、外国人観光客の利用が増えてきている。市内には外国人観光客があふれている。ただ、地元客の利用はまだ少ない。	

旅行代理店（従業員）	単価の動き	・北海道胆振東部地震及び停電の影響が酪農業を中心に起している。また、天候不順による作物の生育遅れなどもあり、農業の今年の収穫高は過去最高となった前年に及ばない状況にある。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来客数が変わらないことから、景気は変わらない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・この3か月、来客数はほとんど変わっていない。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・9月の北海道胆振東部地震の影響から、10月も引き続き旅客、車両共に輸送量が前年比で大きく減少している。特に本州からの観光客が減少している。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来場客との商談内容や商談にかかる時間に大きな変化はみられない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・9月の北海道胆振東部地震の影響なのか、消費税増税の報道による影響なのかは分からないが、来客数や買上点数、客単価などが低迷している。
商店街（代表者）	来客数の動き	・数か月前からの燃料の値上げの影響などにより、公共交通機関及び自家用車を使用する買物客が減少している。さらに、灯油価格が1リットル100円を超えていることから、冬季の燃料代を不安視する高齢者が出控える傾向もみられる。また、小グループの外国人観光客の姿を見掛けても手ぶらで歩いていることが多く、当地において買物などもほとんど行っていないことがうかがえる。
一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響で9月は来客数が3割以上も減った。10月に入り少しずつ戻ってきているが、中国人や韓国人などの国際線利用客はかなり少なく、以前の半分にも満たない状況にある。
百貨店（売場主任）	来客数の動き	・9月の北海道胆振東部地震以降、売上が前年を下回る傾向が続いている。また、食品の催事の来客数は良いが、そのほかの宝飾、婦人服、紳士服の催事では来客数が減っており、高額商材の動きも悪い。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・悪天候の影響により来客数が減少している。一方、月末に商店街との共同イベントを行ったことで集客面での効果もみられたが、買上には余りつながっておらず、10月は来客数、客単価共に厳しい状況にある。
百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・9月の北海道胆振東部地震以来、衣料品の動きが鈍くなっている。また、震災後に伸びた食品、化粧品も10月は反動減となっている。前年あった物産催事が1つなくなったことも影響している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ガソリンや灯油の価格高騰により、遠方からの来客数が減少傾向にある。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・9月は北海道胆振東部地震の影響による特需が旺盛であったが、家庭内の備蓄が豊富になっていることもあり、落ち着きを取り戻すにつれて、売上が厳しくなっている。無駄な消費はしないとといったムードも高まっている。
スーパー（役員）	来客数の動き	・9月は北海道胆振東部地震の影響で必需品や備えなどで特需が発生し、来客数、客単価、商品単価などの全ての指標が過去数か月と比べて上昇したが、大きな出費につながったことの影響で10月は来客数の減少、客単価の低下がみられている。また、売上構成比では大きい部門ではないが、たばこの価格が10月から引き上げられたことも、来客数を減少させる要因となっている。
スーパー（役員）	お客様の様子	・北海道胆振東部地震による震災特需が落ち着き、カップ麺、レトルトカレー、水などの売行きが急に悪くなった。家庭内在庫が増えているためとみられる。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・たばこの売上が減少しているが、それ以外の商材については売上が回復してきている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・秋サケ漁が不振なことの影響で売上が減少している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道では秋から冬に掛けての時期に景気が落ち込む傾向がある。春の商戦は1月から始まるため、年明けからの本番を控えて徐々に景気が落ちてきている。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・年金月に売上がやや増加する図式が崩れてきている。客の動きの読めない時代になってきている。

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・前年よりも来客数が減少傾向にある。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震などの災害があったことに加えて、当地では市長選挙も近づいていることから、景気はやや悪くなっている。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・9月の北海道胆振東部地震によるダメージが甚大であり、10月に入っても外国人観光客の回復は緩やかである。北海道ふっこう割の効果も実感できていない。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震以降、特に海外へ出掛ける客が減っている。
	旅行代理店(従業員)	それ以外	・北海道胆振東部地震の影響により、景気がやや下向きになっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響により、観光客の問合せが止まっているほか、事前予約のキャンセルもみられている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・9月に起きた北海道胆振東部地震の影響により、観光客などの予約キャンセルがみられたことで売上が大きく減少し、1千万円強の減収となった。地元客の動きは観光客よりも鈍く、3か月前とは比較にならない厳しい状況が今も続いている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・9月のブラックアウトの影響による落ち込みから徐々に回復傾向にあるが、外国人観光客の数はまだ少ない。
	通信会社(社員)	お客様の様子	・新商材が出たものの、客の反応が薄く、例年のような反響がないまま終わった。
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・9月下旬に発売された話題のスマートフォンについて、震災直後には想定以上の引き合いがあったものの、店頭での予約が見込みよりも少なかった。高価格に伴う買い控えも発生しており、買換えを中心に販売量が落ち込んでいる。
	パチンコ店(役員)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震直後よりは外国人観光客の動きが良くなっているが、以前のような来道客が増えている状況までは回復していない。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・北海道胆振東部地震による影響で、客が消費を行う対象が変わってきている。
	住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・北海道胆振東部地震の影響で、今後の北海道の先行きがどうなるかが不安視されており、大きな買物や投資が見送られている。
×	商店街(代表者)	販売量の動き	・北海道胆振東部地震直後は停電の影響による食材廃棄や営業停止などで商店街も大打撃を受けた。その後は徐々に日常を取り戻したかのように見えていたが、10月に入り飲食店を中心に、売上が軒並みダウンに転じた。ある新聞販売店に聞くと、折込広告の申込みが前年の6割程度しかなく悲鳴を上げていた。どことなく沈んだムードを払拭しきれない様子であり、経済の低迷が深刻である。
×	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の直後は来客数が大きく増加し、必要以上に商材を購入した客が多数みられほか、たばこの値上げ前の駆け込み需要が発生したことで、9月の売上は増加したが、10月はその反動で来客数、売上共に大きく減少している。食品、防災品、たばこの購入で余分な出費がかさんだことの調整のため、消費が落ち込んでいる。
×	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・9月の北海道胆振東部地震の影響が続くことを心配したが、10月に入り、個人客が戻りつつあり、個人客による売上は前年比で10%の増加となった。しかし、団体客は前年比で15%の減少と厳しい状況にあり、今後、半年以上は現在と同様の状況が続くと覚悟している。
×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・北海道胆振東部地震の影響によるキャンセルが10月に入っても続いており、宿泊予約客数が大幅に減少している。北海道ふっこう割の効果は限定的であり、予約数の伸びも鈍化しているなど、厳しい状況にある。国や行政による継続的な支援が必要である。
×	タクシー運転手	来客数の動き	・9月に起きた北海道胆振東部地震の影響で観光客が激減している。観光客は少しずつ戻ってきているが、売上は前年を大幅に下回っている。

		タクシー運転手	販売量の動き	・売上は前年比で5%以上のマイナスとなった。北海道胆振東部地震による大規模停電の間、外出や通院などの需要が全くなかったことの影響がまだ残っている。また、自粛ムードの高まりで夜間の繁華街への人出が減っていることも影響している。
	x	観光名所（従業員）	来客数の動き	・10月25日時点の利用客は前年の約46%と大幅に減少している。北海道胆振東部地震後と比べると利用客は戻りつつあるが、回復が緩やかであり、平常の状態に回復するのは本格的な冬季観光が始まってからになる。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・工事の追い込み時期に入り、完工高、利益共に計画を上回る実績で推移している。受注済みの案件で年度計画の達成は確実とみられる。民間建築工事では、北海道胆振東部地震に伴う応急修繕など、小口工事の引き合いも多くみられる。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・9月の北海道胆振東部地震の影響で停滞していた物流がようやく正常に動き始めた。
		コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・取引先の設備投資の動きが加速している。来年度の予算計画でも今年度と同様の設備投資が見込まれる。
		その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・ここしばらく、売上予測を上回る月が続くなど、ものづくりの現場市場は活況を呈している。生産性向上に対する企業の意欲が高く、人手不足解消に向けての動きが強まっている。
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・販売量が前年から1割ほど下回った数字で推移しており、3か月前と比べてほぼ変わらない状況にある。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・北海道胆振東部地震や台風などの影響がまだに残っている。特に小売店での販売動向が良くない。
		司法書士	取引先の様子	・土地建物の不動産取引がやや停滞しているが、建物の建築などについては横ばいが多少の伸びがみられることから、景気に大きな変化はない。
		その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・5月以降、売上が前年並みで推移している。年内はこのままの状況が続く。
		食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・10月の販売量は前年比マイナス1%であった。3か月前の7月は前年比プラス6%であり、景気はやや悪くなっている。
		建設業（従業員）	取引先の様子	・台風や北海道胆振東部地震の影響で、これまで建築業界の好況を下支えしていた観光宿泊施設の客数が減少しており、今後の投資意欲を一気に冷めさせている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・9月に発生した北海道胆振東部地震の余波が企業活動に直接的な影響をもたらし始めている。企業活動の様子見が強まり、計画の後ろ倒しが増えている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・9月に発生した北海道胆振東部地震による経済活動停滞からの回復がみられるものの、道内景気をけん引してきた観光関連産業において震災前の水準には回復していないことから、道内景気は3か月前と比べてやや悪化している。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・9月の北海道胆振東部地震の影響が尾を引いている。
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、建物の新増築改築工事が例年と比べて少ない。
		司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復の兆しが見えない。北海道胆振東部地震の影響で心理的な不安感が強まっており、不動産を取得する意欲が乏しくなっている。これから本格的な冬に向かうため、取引が増大する期待はしばらく持てない。
		その他サービス業 [ソフトウェア開発] (経営者)	取引先の様子	・受注量が減っており、景気はやや悪くなっている。
	x	*	*	*
雇用		-	-	-

関連 (北海道)	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・有効求人倍率が高い一方で、求職者の登録数が横ばいで推移していることから、人材派遣会社に登録しなくても、独自ルートでの採用が容易になっているようにみられる。また、当社からの紹介で内定を得た登録者の中には、数社から内定を得ているケースが多く、企業の採用意欲が高いことがうかがえる。高スキルの人材を求める企業が多いということは、企業の業績が悪くないことの裏返しであり、景気は好調である。
	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・北海道胆振東部地震後は各企業の新卒採用担当者の動きが若干低迷していたが、10月に入ってから再び動きが上向きになっている。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・人材不足を背景にした求人決定率の低さによる出し控えはあるものの、求人数に大きな変化はみられない。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・北海道胆振東部地震の影響が続いており、外国人観光客の減少傾向が改善されてこない。宿泊業を始めとする観光業や小売業の求人が少なめで推移している。
	求人情報誌製作 会社 (編集者)	採用者数の動き	・北海道胆振東部地震後、観光客の減少が続いているものの、それ以外の地元経済、物流などは回復している。また、依然として人手不足感が強いが、求職者が様子を見ようとする傾向が一層強くなっており、売り手市場感が非常に強まっている。中長期的にみると、主婦やシニア層を上手に雇用できる企業が生き残ることになる。
	新聞社 [求人広 告] (担当者)	周辺企業の様子	・この時期としては気温が高めに推移していることで、特に冬物衣料の売上が不調との話が聞こえてくる。また、基幹産業である農業の産出額にも多少の不安がみられる。これらのことから、当地の雇用環境は変わらないまま推移している。
	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・月間有効求人数が4か月ぶりに前年を下回ったが、月間有効求職者数が6年11か月連続で前年を下回ったことから、有効求人倍率は1.12倍となり、8年7か月連続で前年を上回った。
	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・9月の有効求人倍率は1.19倍であり、前年を0.08ポイント上回り、高い水準で推移している。
	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・新規求人のうち7割が更新求人であり、特に人手不足分野である建設業は8割を超えるなど、人手不足感が強い。
		*	*
x	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	・北海道胆振東部地震直後に比べると回復の動きがみられるが、観光客数が減少していること、自粛ムードがややみられることから、飲食店やサービス業の集客が余り良くない状況にある。また、いつになったら地震前の水準に回復するのか、先行きも見通せていないことから、冬を目前にして燃料代の高騰によるマイナスの影響がじわじわと高まることが懸念される。